

第4回 浜松医科大学「明日の病院運営を考える会」議事録

1. 日時 : 平成24年1月31日(火) 15:00~17:00
2. 場所 : アクトシティ浜松コングレスセンター 22+23 会議室
3. 出席者 : 病院からの出席者 26名
4. 議題
 - (1) 講演 : 東日本大震災に学ぶ ライフライン確保の重要性
(講師 地域医療学講座 山岡泰治)
 - (2) グループディスカッション :
 - ・各病院のライフラインの確保の現状と課題
 - ・ライフライン確保のために地域の医療機関と連携して対応できること
5. 配付資料
 - ・資料4-1 出席者名簿
 - ・資料4-2 東日本大震災に学ぶ ライフライン確保の重要性
6. 議事
 - (1) 講演 (資料4-2を参照)
 - ・地域医療学講座 特任教授の山岡から、「東日本大震災に学ぶ ライフライン確保の重要性」と題する講演を行った。講演要旨は、以下の通りである。
 - ・危機管理の要諦は、これまでに言われ尽くされている。しかし、今回の大震災でも、過去の至言を活かしていない事例が多く見られた。「ABC」(当たり前のことを・馬鹿にせず・ちゃんとやる)が大切だということ、東日本大震災は改めて教えてくれた。今回は孫子の兵法をもとに危機管理のポイントを説明するが、強調しておきたいのは「兵を用いるの法は、其の来たらざるを待むこと無く、吾が以て待つこと有るを待むなり(九変篇)」である。想定に囚われることなく被災状況に応じて臨機応変に対応することが必要であり、平常時から被害(シナリオ)を想定し、それに対応できる備えを準備することが大切だと言える。さらに、東日本大震災の教訓を謙虚に学び、不測(想定外)の事態に対処できる柔軟な思考を養うことも必要である。
 - ・次に、東日本と阪神淡路の二つの大震災による被災状況を再確認したい。静岡県の場合、東海地震(+東南海・南海地震)は「天災は忘れた頃にやって来る」のではなく、「忘れないうちにやって来る」といえる。そこで、過去の震災の経験に学ぶことが大切である。まず、二つの大震災による負傷者の割合は、東日本は23%に対し阪神淡路は87%であった。津波肺や低体温症などの東日本に特異的な症例が報告されているが、それとともに東日本の特徴は、①死者数が負傷者数を遙かに上回ったこと、②治療の対象は大部分が避難所にいる住民であり急性期の患者は少なかったことにある。
 - ・また、東日本大震災による災害拠点病院の被災状況を見ると、診療機能に支障を来した病院が、外来で2/3に、入院で過半数に達する。さらに、自院が震災による直接の被害を免れても、周囲の医療機関が被災した影響を受けて

本来の機能を発揮できない事例もあった（石巻医療圏では、石巻市立総合病院が津波被害により潰滅し入院患者全員が転院する状況に陥った。この影響を受け、石巻赤十字病院は軽度の患者も受け入れることになり、本来の機能を十分発揮できなかった）。したがって、圏域内の医療機関が連携して、大規模災害により急増する患者対応を図る体制を整備することが不可欠である。

- ・被災後に日本医療事務センターが被災地の病院の事務長を対象に実施したアンケート調査によると、「特に強化すべき防災対策」としてライフライン確保の重要性が指摘されている。この指摘は、組織内部にその専門家を配置している医療機関が少ないこと、また建築物が健全であってもライフラインが確保されていなければ医療スタッフの活動が大きく制約を受けることによるものであると考えられる。そこで、後半のパートでは、このライフラインに特化した話しを続ける。
- ・今回、ライフライン（対象としたのは、水、電気、ガス、通信）確保の対策をまとめるにあたって、①現有設備の改善、②代替手段の確保、③使用量の削減の三つの視点から分類を行った。整理した結果を配付資料に示すが、水については、その必要量を計算する対象として患者だけでなく、職員・帰宅困難な外来患者と患者家族にまで拡げる必要性があったことを指摘する病院が多かったことを強調したい。また、電気では、電源の多重化を図るために自家発電装置を増設する場合に、多くの医療機関が採用している水冷式だけでなく空冷式（冷却水不要）も候補に検討することを勧める。これは仮に自家発電装置用の冷却水喪失という事態が発生しても、空冷式の設備であれば発電を継続することが可能になるからである。
- ・纏めると、東日本大震災は尊い教訓を与えてくれた。この経験に学ぶことが大切である。東海地震のような広域災害が発生した場合には、必要となる機能を維持し急増する医療需要に対応できるように人的・物的・知的資源を整備することが不可欠であり、東北三県の医療機関からはこうした資源が活躍できる環境を確保するために、平常時からライフラインの整備を進めておくことが重要だとする指摘に学ぶことが大切である。このライフライン整備において、事務部門の皆さんが担う役割は大きいので、今から明日に備えるために、まず事務部門の皆さんがアクションを起こしてもらいたい。

(2) グループディスカッション

- ・グループディスカッションでは、ライフラインの確保状況に関する情報交換が主に行われた。また、装置や設備として整備だけではなく、訓練を通して電気・通信等の確実な確保まで図ることが重要だと指摘も出された。

以上